

# コスト・ラムロ कस्तौ राम्री

2003年9月1日発行

中瀬先生のご冥福を  
心からお祈り申し上げます



中瀬先生は平成15年5月15日午後5時15分 肝不全のため徳島大学付属病院で死去。62歳の若さでした。

告別式は5月18日 イマデヤ葵会館で執り行われましたが、大学関係、産業界、登山関係者、当協会会員など、生前親交の深かった多数の方々のご会葬とお見送りをうけ、永い旅路につかれました。

1966年徳島大学大学院工学研究科を卒業。同大学工学部講師、助教授を経て1986年から同教授に。1996年徳島ネパール友好協会設立時から2001年まで会長を務め、ネパール・ヒマラヤの麓のプジュン村に小型水力発電所を建設するプロジェクトなどに尽力いたしました。1999年に徳島新聞社の社会賞を授賞。

尚、中瀬先生は生前の功績が認められ、6月10日正四位・勲三等旭日中綬章が贈られました。



[ 正 四 位 ]



[ 勲三等旭日中綬章 ]

今は亡き中瀬敬之先生の霊前に捧ぐ 弔辞

徳島ネパール友好協会 会長 天野親聡

本日ここに、故 中瀬敬之先生のご葬儀がとり行われるに当り、謹んでご霊前に弔辞をのべさせていただきます。

中瀬先生の弔文を、私が述べるようなことが起きるとは、誰が想像できたでしょうか。今、私は人生が余りにも無情であり、悲しい別離があるという現実を知らされ、悲痛の極みです。中瀬先生、貴方は何故私達仲良しグループである、徳島ネパール友好協会の親しい人々に、別れも告げず唯一人で逝かれたのですか。

16日早朝に、弘子夫人よりの訃報に接し、驚愕の一言で、一体どうなっているのかと立ちすくんでしまうほど、余りに悲しい電話でした。

私は、若いときから人生の理想と夢を登山に求める者です。そしてその登山の先輩を通じて、中瀬敬之先生とのお付き合いをいただいて参りました。ご一緒させていただいた時には、いろいろとご造詣深い工学的な教養よりのお話も多く、又先生特有の人生論についての面白い語り口が、今も私の脳裏に深く印象に残っております。もう一度貴方と、大好きなネパール王国にトレッキングに参りたい気持ちでいっぱいですが、今はそれもかなわない悲しい現実となりました。

先生は徳島大学工学部の流体力学の名教授として、教育界にご尽力される一方、登山関係や私達徳島ネパール友好協会の国際交流の先頭に立って、ご活躍を賜りました。ここに厚くお礼申し上げます。

殊に1995年の、同国の無灯火地域であったブジュン村に、小型水力発電所を建設しようという計画は、先生の高度の技術的なご教示を賜った事により、その完工をみたものと私達は感謝申し上げます。又、先生はネパールには数多くの親友がおられ、駐米ネパール特命全権大使 ジョイ・プラタップ・ラナ氏、

WWアジア太平洋諸国代表 チャンドラ・P・グルン氏、

ネパール徳島友好協会会長 ビシュヌ・ゴパル・シュレスタ氏

がこの悲報を聞かれ、如何に悲しむことだろうかと思っております。

又1997年の起工式に同行し、その自然の美しさと村人達の心温まる歓談に感激された美馬準一氏が、帰国後、同国との友好記念にと建設された、ネパールの家の外壁に、先生の歌碑が貼付されているのを見た私は感動いたしました。その和歌は次のとおりです。

ヒマラヤの麓の村に灯をともし

道なき道をきりひらきつつ

ブジュン村水力発電所起工式の日 中瀬敬之

と書かれた立派なものです。先生は生来、ご健康な体躯に恵まれ、明朗闊達、心の温かいご性格をもたれていました。何時も私達協会の和やかな雰囲気満ちている中心的な人材であられました。私は何故、中瀬先生の処に病魔がとりついたのでか、強い怒りを感じております。老少不定とは申せ、62才というあまりに若き年齢で倒れられ、看病の効なくここに幽明界を異にされた今日、中瀬先生とのお別れは哀悼の念で一杯でございます。最後に御霊の安らかならん事を祈念申し上げ、私の追悼の言葉といたします。



題：哀悼の言葉 2003年5月18日

親愛なる中瀬夫人

今朝早く、倉内司郎さんより自宅に電話がありました。  
彼は中瀬教授が3日前にお亡くなりになったという、大変悲しい事を私に伝えました。  
それはこのネパールの私達にとって、本当に悲しい知らせでした。中瀬教授はネパール  
にとって、特に発展が非常に乏しい辺境地域において、緻密で助けになる人物でした。  
彼のブジュン村小型水力発電プロジェクトに対する支援と、ブジュン村の学校に対す  
る個人的な支援は、我々全員がいつも思い出されるものであります。この知らせをブジ  
ュン村に送ると、村の人々にとってとても悲しい知らせになるでしょう。

ここに中瀬教授の悲しいご逝去に対しまして、心から哀悼の意を表します。  
私は旅立った彼の魂の平和な安らぎを、そして中瀬夫人がこの悲劇的なご逝去を乗り越  
える強さを持たれるようお祈り申し上げます。

親愛なる ドクター・チャンドラ・グルン

.....  
KING MAHENDRA TRASUT FOR  
NATURE CONSERVATION

ANNAPURNA CONSERVATION AREA  
PROJECT POKHARA 事業所

2003年5月18日

題：中瀬教授のご逝去にあたっての心からの哀悼

親愛なる中瀬夫人

我々は突然の中瀬教授の悲しいご逝去の報に接し、悲痛な思いに沈んでおります。  
彼の貢献はわが協会にとって計り知れないものであります。我々は彼の事を永遠に  
忘れないでしょう。

我々はここに心より哀悼の意を表し、あなたやあなたのご家族がこの困難な状況に  
耐える力を、全能の神がお授けになるようお祈り申し上げます。  
彼の魂に平和な安らぎがありますように。

ゲレントラ・グルン プロジェクト ディレクター

## お礼の言葉

御尊家御一同様には、愈々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて過日、亡父中瀬敬之儀他界の節は御懇篤なるご弔慰を賜り、尚、格別の御厚志を頂き厚くお礼申し上げます。

徳島大学で若い人達を育ててきましたことは父の遺産であります。また徳島ネパール友好協会会長時に、企業、ライオンズなど、各方面からの浄財とボランティアによって、ネパールの村に水力発電所が完成いたしましたことは、父の生涯の中で最高の宝物になりました。村には電気が全くなく、家の中で薪を燃やす生活であったため、村民はすすで目を病んでおり、電気が引けたことで森林の保護と併せて初めての眼科治療が施されました。

ヒマラヤの 麓の村に 火がともり  
宴の時の 笑顔忘れじ

このたび勲三等旭日中綬章拝受の栄に際し、これもひとえに父を支え、御指導下さった皆様方の御懇情の賜と、誠に有難く衷心より感謝を申し上げます。

お陰をもちましてこの程

観学院雲嶺敬悟大居士

満中蔭の法要を滞りなく相営み忌明致しました。つきましては早速拝趨の上、御礼申し上げるべきでございますが、先ずは略儀乍ら書中を以て謹んで御挨拶申し上げます。

平成15年9月

中 瀬 博

# ネパールにLED灯を

徳島友好協会が計画

徳島ネパール友好協会は来年四月から、ネパールの農村で白色発光ダイオード(LED)を使った

## 安価・長持ち 普及期待

### 日亜化学、1万4000個寄贈

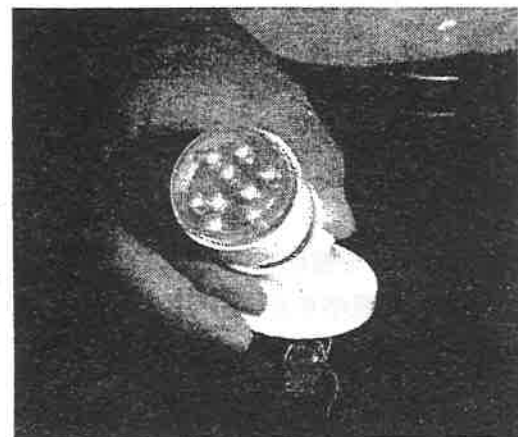
家庭照明の普及に取り組み、同協会の活動を支援している阿南市の日亜化学工業が一万四千個のLEDを寄贈、後押しする。ネパールでは貧困のため、多くの人が電気がない暮らしをしているが、LEDは安価で長持ちするため、普及しそうだ。

に低コストでの普及が期待できるといふ。

日亜化学は「山奥で電気がない暮らしが実現す

LEDの家庭用照明は日亜化学が試作中で、電球一個あたり九個の白色LEDで構成。住宅の屋根に太陽電池(縦二十センチ、横三十センチ、厚さ三センチ)、屋内に小型のバッテリーを設置し、照明の電源を確保する。太陽電池とバッテリーは同協会が寄贈する。電球は台所、玄関、部屋などに取

り付け、一戸当たり六個の使用を想定。部屋全体を照らすには明るさが足りないが、同協会によると、電気がない村では十分な明るさだといふ。このほか、街路灯や集会所にも照明を設置する。贈り先は、ネパール東部の標高千二百メートル付近にあるヤンジャコット村(二百三十戸、人口千五



ネパールに寄贈されるLED電球の試作品

百人)。同協会が一九九九年に水力発電所を贈ったブジュン村の関係者がヤンジャコット村を紹介した。協会の五人が現地です。業者を指導し設置する。事業費は渡航費などを含め九百四十万円。うち20%を村が負担する。LEDを家庭用照明に使うアイデアは、ネパールの環境保護団体のチャンドラ・グルンさん(五三



ることを期待している」とコメント。同協会の出口隆司理事は「このシステムは発電所も送電線も不要で、成功すれば飛躍的に普及するだろう」と話している。

# 小型太陽電池を電源とする発光ダイオード・ランプによる家庭照明プロジェクト

ネパールでは、都市部を除き大部分の地域では、今なお人々は電気(電灯)の恩恵に浴することなく石油ランプによる生活を行っています。

現在デンマーク政府の支援により、農村人口の5%にあたる25,000戸に家庭用ソーラーを電源とする照明システムが普及しているますが、当初デンマーク政府が計画していた5年間に4万セットの目標の62%にとどまっています。

これは何もネパールの人々が石油ランプが好きだというのではなく、40ワット(10ワット蛍光灯4本)の家庭照明システムにかかる費用25,000~30,000ルピーの50%の自己負担は、ネパールの農村に暮らす人々には余りにも高いというのがその理由です。

1999年から始まったデンマーク政府の補助は、当初は工事費の50%を補助するというものでしたが、財源不足から今年度(ネパールの予算年度は、7月から翌年6月まで)は、計画数が9,000セットで16,000ルピー以上の事業に対しては、7,200ルピー、16,000ルピー以下の事業に対しては、掛かった額の50%の補助となっており、これでは自己負担が17,800~23,800ルピーが必要ということになり、ネパールの大多数の貧しい農村の世帯にとっては、そのようなお金を用意することは夢のような話であり、普及はさらに難しい状況となっています。

しかし、徳島の日亜化学工業が世界に先駆けて発明した『紫発光ダイオード』で一躍世間の人々が知ることとなった『発光ダイオード』が、世界最貧国のネパールの中でも最も貧しい農村に住む人々に『電灯』の恩恵を実現可能としました。

それが、今回の超小型ソーラー・パネル(ノート型パソコンの大きさ)を電源とし、『発光ダイオード』9個(TYPE NSPW510BS)個で作った電球による家庭照明システムです。

発光ダイオードで作った電球の消費電力は、ごく微小( $3.6V \times 0.3 \sim 0.4mA = 1.08 \sim 1.44W$ 、これで約9カンデラの光を放出する)で、消費電力が小さいということは、ソーラー・パネルとバッテリーの容量が小さくて良いと云うことを意味します。すなわち安価であるということです。ちなみにバッテリーの大きさは、50CCのバイクのバッテリーの大きさです。

また、発光ダイオードは、現在使われている蛍光灯の寿命(2~3年、安価な低品質のもの寿命はさらに短い)と比べ、その寿命は10万時間といわれており、これは一日に6時間点灯するとしてなんと45年間に相当することになり、メンテナンスが不要と云っても差し支えありません。

バッテリーは、ネパールの標準仕様である直流12ボルト、18アンペア、2000サイクルにて1日おきに5時間の充電をしますが、この使用頻度で寿命は7年、これもメンテナンスが不要と云って差し支えありません。

これまでの蛍光灯によるシステムの場合、蛍光灯や他のパーツの消耗による取り替えが必要であり、システムそのものが故障した場合、周辺に修理サービスを行うところがない

私たちは、この優れた低コスト、メンテナンス・フリーの家庭照明システムを、実際に活かす場所をどこにするかについて、ネパールの友人たちと検討を重ねた結果、電気がない村であること、村人が強く電気による照明を望んでいることそして積極的なリーダーのいることそしてアンナプルナ・コンサーベーション・エリア・プロジェクト(ACAP)地域内の村であることを条件にヤンジャコット(Yangjakot)村を候補地として選びました。

ヤンジャコット村は、戸数約230戸、グルン族の村でチャンドラ・グルンさんのお母さんの出身地であり、またブジュン村のリーダーであるティルケ・バハドール・グルンさんの奥様の出身地でもあります。

このプロジェクトを成功させるためにはいくつかの条件があります。一つは、『草の根無償資金協力』(外務省)を得ることであり、今一つはこの事業の根幹をなす『発光ダイオード』の最大のメーカーである徳島の日亜化学工業の支援(必要数の『発光ダイオード』の無償提供)を受けることです。この事業は徳島ネパール友好協会にとって、1999年に竣工したブジュン村(ラムジュン・デイストリクト)への超小型水力発電所の寄贈に続く事業であり、ブジュンの水力発電所の建設が、日亜化学工業の故小川信雄会長の理解と支援があつて実現したことを考えれば、今回の『発光ダイオード』によって実現可能になったこのシステムと日亜化学工業の結びつき、そしてこの事業を徳島ネパール友好協会が、ブジュンに続いてやろうとしていることに何か因縁めいたものを感じております。

このプロジェクトを成功させ実際の見本を人々に示すことが出来れば、発電所や導水管、送電線を必要としない安価なこのシステムは飛躍的に普及することになるでしょう。

#### ■ヤンジャコット村での事業費の試算

戸数	230戸	230戸
集会所(10Wシステム・5戸分)・街灯(10Wシステム・15戸分)		20戸
照明システム	7,860,000円	31,440円 × 250戸
派遣費用等	402,040円	大阪〜カトマンズ 2人*2回、ビザ代等
滞在費、移動費	507,250円	滞在費 @50ドル*6日*2人*2回 @30ドル*2日*2人*2回 @10ドル*7日*4人*2回
		移動費 市内移動 @50ドル*5日 カトマンズ/ポカラ 2人、2回 カトマンズ/ポカラ(通訳) 2人、2回
		移動費 ポカラ/ヤンジャコット @150ドル*4回*2台
通訳	350,000円	@50ドル*14日*2人*2回
輸送費、組立費等	200,000円	
事務費	80,000円	通信費 20,000、記録費 20,000、レポート 40,000
合計	9,399,290円	

ことを考えるとこの『メンテナンスが不要』ということが、人々にとっていかに大きな利点かが理解できます。

この『メンテナンスが不要』ということに加え、次にみるように低コスト(安価)であり12ボルトと電圧が低いためまったく感電の恐れがなく、電気の恩恵から置き去りにされている貧しいネパールの農村にふさわしい画期的なものと云えます。

このシステムは、次のものから構成されます。

- 1、発光ダイオード電球、
- 2、太陽電池パネルとスタンド、
- 3、バッテリー、
- 4、充電制御器
- 5、電線その他

このうち発光ダイオード電球と太陽電池パネルは次のとおりです。

発光ダイオード9個の電球、6個(台所、玄関ならびに3部屋と他の1カ所))と10ワットのソーラー・パネル1枚

#### ■費用計算(ネパール・ルピー)

10ワットのソーラー・パネル	6,000	
ソーラー・パネル・スタンド	500	
発光ダイオード 54個 × 200円		10,800円
発光ダイオード電球加工費 6個	2,400	
バッテリー、	1,500	
充電制御器	1,800	
電線その他	700	
計	12,900	此 + 10,800円 (20,640円)
合計		31,440円

発光ダイオードの電球は、電線を長くすることによって家の中を自由に持ち運びができ非常に便利である。

灯油ランプは、灯油の購入、毎日の灯油の補給と火屋(ほや)の手入れ(煤の除去)から、女性を解放するだけではなく、火災の危険がまったくない安全なものである。

また、子供たちにとっては、夜間の読書や勉強を可能にしてくれるものである。

最初にも述べたとおり、発光ダイオードの電球によるこの家庭照明システムは、感電の心配はいっさいない安全なものであり、かつソーラー・パネルとバッテリーと電球を繋ぐだけの簡単な構造であり故障の発生する可能性はありません。

また、このシステムは、通信装置やラジオを妨害する電波を発生しません。



2003年7月20日

ネパールの教育支援 里親の皆さんへ

徳島ネパール友好協会 真鍋憲昭

## 「里子からのお便り」の送付と次年度の「支援金」のお願い

長かった梅雨もやっと明け、猛暑の季節となってきました。暑中お見舞い申し上げます。里親の皆さん方もお元気でお過ごしのことと存じます。日頃はネパールの貧しい子供たちへの教育支援で大変お世話になっています。心より感謝申し上げます。

さて、先日ネパールの里子達の「手紙と成績表」が送られてきました。ウツタムさんたちが集めてきて、手紙は日本語に訳してくれています。里子達が喜んで一生懸命勉強している様子が伝わってきます。里子たちも3年間の間にずいぶん大きく成長したようです。また、反政府ゲリラの活動はずいぶんおさまってきているとも聞きます。平和の足音が聞こえるようです。しかし、依然として一般の人達の生活は苦しく、学校へ行けない子ども達はたくさん出てきています。里親の皆さんのお蔭で里子達は安心して学校へ通える様になっています。

ところで、次の年度の教育支援金を集めたいと思います。8月中旬までに集めて、9月には里子達に送ってあげたいと思います。里親の皆様方も出費ご多端かと思いますが、ご協力の程お願い申し上げます。

- 1 期日 2003年8月15日まで  
2 あて先 770-0024 徳島市佐古四番町12-3 真鍋憲昭

電子メール manabel2@mocha.ocn.ne.jp

電話番号 088-653-6413

- 3 金額 12000円  
4 送金方法 幸便、現金書留、郵便小為替などいずれの方法でもかまいません。  
5 お願い ①次年度、都合が悪く里親を辞退する方がいましたら、8月1日までに必ずお知らせ下さい。(新しい里親を探す必要がありますので) その時は今回お送りした里子の手紙や成績表を返送してください。  
②9月にネパールへ行く方や帰る方がいましたらご紹介ください。送金の手数料が大変高いのでことづけたいと思います。また、年内にネパールへ行かれる方がいましたらお知らせ下さい。里子達への手紙や文房具を託したいと思います。(私は12月末ごろ行きたいと思っています。)  
③メールアドレスをお持ちの方はお知らせ下さい。ウツタムさんからのメールが届きしだい、転送致します。  
6 備考 私の勤務先をお知らせしますので、昼間は勤務先へご連絡下さい。

徳島市沖洲小学校 電話番号 088-664-0321

FAX 088-664-0366

770-0874

徳島市南沖洲2丁目2-4

ネパールの「里子」と「里親」一覧表

2003. 7. 15現在

番号	名前	年齢	性別	学年	父	母	家族(人)	職業	得意教科	趣味	目標	里親
1	ロビデブ・タバ・マガル	13	男	7年	無	有	5	農業	国語	無	教師	大田治夫
2	ウサ・ラマ	13	女	6年	有	有	4	運転手	国語	無	医師	中谷浩吉
3	ディリブ・クマル・グルン	14	男	5年	無	無	7	農業(叔父)	国語	読書	教師	古林千之
4	クリパ・ナガルコティ	11	女	2年	有	無	3	日雇い	*	読書	*	山田善仁
5	ラビン・タバ	14	男	4年	有	有	7	日雇い	英語	無	教師	斎藤武尚
6	スミトラ・ナガルコティ	9	女	4年	有	有	6	日雇い	社会科学	勉強	医師	三村和生
7	マノズ・マガル	15	男	8年	無	有	7	農業	国語	勉強	パイロット	近藤利弘
8	ボスンダラ・ナガルコティ	11	女	4年	有	有	8	日雇い	算数	勉強	教師	真鍋憲昭
9*	キリスナ・マヤ・ピソカルマ	13	女	5年	有	無	3	日雇い	英語	勉強	看護婦	吉本旭
10	サガト・ラム・ラマ	10	男	2年	無	有	6	日雇い	国語	勉強	*	吉住千亜紀
11	シリ・キリスナ・タパマガル	10	男	5年	有	有	7	日雇い	国語	勉強	医師	美馬準一
12	ラクシミ・タマング	17	女	7年	有	有	9	日雇い	英語	勉強	教師	櫻原道治
13	プスポ・ラマ	13	男	7年	無	有	3	農業	英語	勉強	教師	北野功治
14	サヌナニ・タマング	15	女	5年	有	有	5	無職	国語	運動	法律家	天野親聡
15	ススマ・デユラル	*	女	5年	有	有	4	日雇い	社会国語	*	*	長江黎子
16	ハリ・プラサド・ブダホキ	15	男	4年	無	無	5	日雇い	*	*	*	星山昭二
17	ロビンドラ・ケーシー	14	男	6年	有	有	7	農業	国語	勉強	善い人	豊田えり子
18	アニス・マハルザン	6	男	2年	有	有	4	日雇い	*	*	*	玉岡洋子
19	ニケス・マハルザン	8	男	1年	有	有	5	日雇い	*	*	*	苗代迫まゆみ

(残念ながら9キリスナ・マヤさんはお父さんがガンのため学校をやめて働きに行きました。)ご協力ありがとうございます。お蔭様で、19人の貧しい子供達に勉学のチャンスを作ることが出来ました。まだ他にご支援下さる方がおいでしたらご紹介下さい。

## シャンカールさん研修終了・帰国

今年4月から8月までの予定で、阿南市のプラント機械メーカー藤崎電機(株)(社長藤崎 稔氏)で、風力・太陽光学の研修を受けていた、シャンカール・ラル・バイディアさんは、8月上旬予定の研修を無事終了し、ネパールに帰国いたしました。

この間、研修をお引受いただきました藤崎電機(株)は、今までに8ヶ国から10名の研修性を受け入れた実績と経験を生かし、社長以下、社員一同の温かいご指導、ご協力により、研修の目的が達成できました。

当協会としても、国際交流の一翼を担えたことを喜んでおります。藤崎電機(株)の皆様、感謝とお礼を申し上げます。

この間、シャンカールさんは風力・太陽光学システムの技術の向上は勿論、大変多忙な日々でしたが、ネパール協会の友人たちとの交流も深まり、日本語も大変上手になりました。研修期間中、国内出張やフィリピンにも出向くなど、いい経験ができたこと心から喜んでおりました。



尚、8月3日には、当協会会員三村和生さんのお世話で「お別れ会」を開きました。楽しく懇談し、次回「徳島の日」にはプジュン村への同行を約束していただきました。

8月17日徳島駅発の関西空港行きで帰国いたしました。お元気でご活躍されることを期待しております。

2003年(平成15年)8月2日

電気保安功勞  
県関係、3人と  
3団体を表彰  
四国経産局

四国経済産業局は一日、電気関係業務に長年従事し、電気保安について功勞のあった個人や事業所を高松市内で表彰した。徳島県関係では三人と三団体が局長表彰を受けた。被表彰者は次の皆さん。

【電気事業者現業機関の部】四国電力池田支店 出合電力区(池田町) 【電気工事業者営業所の部】丸岡電機商会(牟岐町) 有限会社シノー電気工業(徳島市) 【個人の部】福村英雄(電気主任技術者、松茂町) 富永大司郎(電気工士、藍住町) 石井孝(同、半田町)

当協会会員 石井孝さん

国経済産業局より表彰される

2003年(平成15年)8月15日

### ネパール支援活動紹介

貞光 友好協会員が写真展



ネパールでのボランティア活動の様子が写された写真展「神々の麓まで」  
貞光ゆうゆう館ギャラリー

徳島ネパール友好協会「ザ・CAクラブ」主催で、会員の三村和生さん(至三) 二十日まで。入場無料。  
川島町児島、自動車整備業の写真展「神々の麓(ふもと)まで」が、貞光町大須賀の道の駅・貞光ゆうゆう館で開かれています。貞光町の文化団体

展示されているのは、三村さんらが一九九八年、ボランティア活動でネパールに救急車を寄贈した際の写真など約五十点。で「道」を走る救

急車の様子や美しい山岳風景、同協会が九九年に水力発電所を建設したプジュン村の人々の姿が生き生きと写し出されています。

徳島新聞

## 徳島での体験

(2003年4月～8月)

私とTNFAとの出会いは、1995年ネパール西部のブジュン村における、小水力発電所建設計画でした。この建設中、私はTNFAの人達との友好を深め、彼らのネパール支援に対する努力に感謝するようになりました。そして、2000年8月には短期間でしたが、徳島を訪れることができました。

今回私は、私の専門であるマイクロ hidroテクノロジー以外の技術を学びたく思い、TNFAの会員の方にその旨を知らせました。その結果、阿南の藤崎電機において風力と太陽エネルギーの研修をすることが可能になりました。

運良く藤崎電機では10KWの風力発電を建設中で、私にとってもちょうどよい機会でした。しかし、短期間で私の入国に対する日本政府からの承認を得るのはとても大変で、いろいろな方のお力添えで、なんとか4月からの藤崎電機の仕事に参加できました。

私は45歳で研修を経験するという事に興奮すると共に、いくつかの不安がありました。ひとつは私の年齢が、日本政府の研修生などに対する資金援助対象にならなかったこと。もうひとつは、私が日本語に習熟していなかったことです。

最初の問題はTNFAの援助と、藤崎電機からの研修費で解決されました。次の問題(言語)は思ったより大変でした。会社の同僚が英語を話せなかったので、私は時々寂しい思いをしました。しかし、彼らの努力と親切で、徐々に私の日本語は上達していきました。藤崎電機の社長さんのお力添えにより、私は家庭にいるかのように感じさせて頂き、研修中の環境は大変満足のものでした。

10KWの風力発電実験の他にも、徳島や大阪での太陽電池の研修や工場での活動などで、大変忙しいものでした。が、阿南での忘れられない思い出に木村さん(藤崎電機)との釣りがあります。

また、阿南での滞在中、ほとんどの終末を私と共に過ごしてくれた柳沢ファミリーにはとても感謝しています。それがなければ私はとても寂しい週末を過ごしたことでしょう。私は日本の習慣、食べ物、ライフスタイルを共にすることにより、日本語が上達したと思います。他にも私は大勢のTNFAの方々に助けられました。

私は、日本人の仕事のスタイルからたくさんを学びました。あいにく、私は他の重要な仕事のため、藤崎電機での滞在を短くしなければなりませんでした。しかし、私はネパールでのエネルギー計画のため、将来も連絡を取り合っていくことを願っています。

最後に私は、このトレーニング(技術研修と言語習得)を可能にしてくれた、全ての人々に心から感謝いたします。

Shankar · Lal · Vidya



[完成式典で現ギヤネンドラ  
国王に謁見する中瀬教授]



[同式典で挨拶される  
中瀬教授]



[同徳島式典・交流会でのひとこま]

## 徳島ネパール友好協会

☎779-3211  
徳島県名西郡石井町藍畑字西覚円718-5  
TEL・FAX 088-674-4168 TEL 088-675-0835

○事務局よりのお願い 会費未納の方は、下記に振込んで下さい。

振込先

(銀行振替) 阿波銀行 石井支店 (普) 1009369 徳島ネパール友好協会

(郵便振込) 石井郵便局 01600-2-52742 徳島ネパール友好協会